Report for Creating Peace and Happiness
Musashino University Creative Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所通信 Vol. 191
2026 年 11 月 9 日発行

武蔵野大学サステナブルキャンパスプロジェクトにおける実践と国際的な評価



研究員　明石修、田中笑子、鈴木菜央、大澤侑一、山田博、今福理博、佐野奈緒子、白井信雄、高木俊、友田奈津美、箕輪潤子、山本摂子

本プロジェクトでは、武蔵野大学が環境・人・社会の持続可能性を高めるべく、有明・武蔵野両キャンパスにおいて学生と教職員が共創的に研究・実践活動を展開している。2025 年度はこれまでの調査や基盤づくりを経て各活動の実践が一層深まるとともに、国際的な評価も得られた。本稿では主要な活動と成果を報告する。

1. サステイナブルキャンパス・アジア国際会議への参加と受賞

11 月 7 日～8 日、北海道大学で開催された CAS-Net JAPAN 年次大会 2025～サステイナブルキャンパスがつなぐ知と実践～にプロジェクトメンバーが参加し、屋上菜園のコンポスト・養蜂プロジェクト・マイボトルステーション等、学生主体のキャンパスサステナビリティ実践を報告した。その経験を活かし、2026 年 2 月 2 日～3 日にタイ・チュラロンコン大学で開催された「第 10 回サステイナブルキャンパス・アジア国際会議（ACCS）」において、環境学研究科 2 年の片平理子さんが英語でプロジェクトについて発表し「ゴールド賞」を受賞した。「都市部における屋上コモンズを中心とした学生主体の実践」をテーマとした発表は、大学の屋上庭園でのパーマカルチャー実践・堆肥化・都市養蜂などが都市の環境教育とコミュニティのレジリエンス向上に寄与する点が高く評価された。教員部門でも SDGs と「プラネタリーヘルス（人と地球の健康）」を統合したリジェネラティブ（再生的）なキャンパス構築について発表し、国内外の学生・教職員との活発な交流につながった。キャンパスを拠点とした学生主体の実践が、国際的な知の共有の場へと発展しつつあることを示す成果となった。

2. 有明・武蔵野両キャンパスでの活動

有明および武蔵野キャンパスに展開するコミュニティガーデンでは、ガーデンの整備や焚火と対話など参加型の企画を継続的に開催した。単なる自然再生にとどまらず、**学内外の多様な人々をつなぐ「居場所」としての機能**を深めている。無農薬の菜園や地域の生ごみ堆肥化・養蜂活動を通じた資源循環を実践するとともに、週 1 回のオープンワーク等を継続的に開催し、有明こども園の園児・障がい福祉施設「オアシス・プラス」の方々・近隣商業施設とのコラボレーションなど、多様なステークホルダーとの連携へと発展させている。有明キャンパス 4 号館前の緑地で開催された地域住民との交流イベント「じゅんぐりマーケット」などを通じ、環境・社会・人間のウェルビーイングを同時に高めるモデルの実装が進んでいる。モノの図書館プロジェクトでは学内からの寄贈を受入れ新年度より運営および評価に取り組む予定であり、都市型大学ならではの共創型サステナビリティ実践を加速させていく。

各活動は学内にとどまらず、地域の多様なステークホルダーとの協働を通じて着実に社会的なインパクトを生み出しつつある。こうした学生主体の実践の積み重ねをさらに地域社会・他大学との連携へと発展させ、都市型大学におけるサステナビリティ教育と実践の融合を体現するモデルケースとなることを目指した。

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
Musashino University Creating Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所　電話：03-5530-7730
東京都江東区有明３－３－３　メール：mhi@musashino-u.ac.jp